

来ぶらり 34 (合併号)

近未来——大学図書館

大学構内の木々の間をぬって、この10年間に、白く美しい建物があちこちにニョキニョキ出現してきた。図書館の灰色のコンクリート壁の建物が、さらにくすんでみえる昨今だ。しかし、新しい時代の波は、同時代に生きるものを平等に扱うような調子で、確実に押しよせている。「おい、図書館へ行ったか？ すっかり変わったぜ」そんな会話が交わされるのも、明日のことかもしれない。

これからの大学図書館点描

図書館事務長 山本正敏

大学図書館は、いうまでもなく、研究と教育に必要な図書資料を収集し、それらを利用者に有効適切に提供する場です。情報化社会と呼ばれる現代において、図書館も必然的に改革していかなければならないでしょう。しかし、いま改めてその具体的な方策を求められても、積極的な姿勢を示すことができないもどかしさを感じます。他大学の図書館を見ても、模索中とか試行錯誤を重ねているのが実状のようです。

それでは本学図書館の場合、現状はどうか、問題はどこにあるのか、将来への見通しはどうかなど、2～3の点について探ってみましょう。

まず第1に、図書資料の選定について考えてみます。図書資料の選定は、図書館業務のなかでも最も重要な問題のひとつです。使用頻度の高い図書と、定評のある基本図書とのバランス。学習用図書と研究用図書とのバランス等々。とくに学習用図書の選定は、教員と学生と図書館職員が一体となって積極的に努力しないかぎり、蔵書構成の欠落を防止したり、利用者の増大をもたらすことはできません。将来は、教職員だけでなく、学生の代表も加えた図書選定委員会を設置することが望ましいと思います。

第2点は、利用者に、あらゆる分野の図書資料に自由に接することができる場を提供することです。利用者が、探している図書資料のところへ、いつでも、自由に行けるとしたら、どんなに素晴

らしいことでしょう。一般に、自由に手にとつて見られる図書の適当な冊数は、10万冊とも13万冊ともいわれていますが（本学図書館は約3万冊）、利用者の立場からすれば、その冊数に限度はないでしょう。したがって、もし将来、図書館の増改築ができるならば、そのスペースを十分配慮すべきだと思います。さらに、利用者が書庫内に入出入りできるような方途も検討されるべきでしょう。

第3点は、図書館と各学部学科図書室との関係です。図書館の効果的な運営には、各学部学科図書室との有機的な連携が不可欠ですが、現在は必ずしも十分な連携がとられていません。そのため、利用者に不便をかけることもあり、また不必要な重複図書を生じているように思います。

最後に、図書館業務の機械化について触れておきます。近年、情報量が飛躍的に増大し、大学をとりまく社会がコンピュータ化していくなかで、図書館も機械化の推進をはからなければなりません。しかも、その機械化は、部分的な業務の省力化のためのものではなく、コンピュータによって図書館業務全体のシステム化をめざすものであることが必要です。情報サービス活動のネットワークを、地域単位から全国へ、さらに国際レベルまで高めるためにも、まず「足もと」である学内の図書業務の組織化と管理体制を一日も早く確立することが、何よりの急務だといえそうです。

雑誌と機械化

中央図書館では、現在、約1550種類の雑誌を継続して受入れている。全学では約4800種類になる。雑誌は、ふつう何十年も、時には1世紀以上も続いて刊行されるものである。このような雑誌を、欠号もなく管理・運用するには、相当な労力を要する。欠号の補充・未着の督促、多様な契約・支払いなどの複雑な雑誌業務の省力化・迅速化を目的として、まず国立大学系の図書館が、1968年ごろから業務の機械化を始めた。いわゆる「ハウス・キーピング型の機械化」である。また、文部省は、1977年から、自然科学系の外国雑誌の収集補強を目的として、理工系・医学系・農学系の分野について拠点図書館を指定し、必要な資料の収集に当たっている。雑誌の増加にともない、拠点図書館の中には、雑誌業務を機械化したところもある。

現在は、「情報化社会」といわれているように、情報量が急増しつつある。なかでも学術研究の急速な発展にともない、世界に流通する学術情報は

急激に多量化・多様化してきた。必要とする情報を確実に入手するには、目録などの2次情報誌を使っているが、将来ますます膨大化する情報に対しては、機械による情報検索が便利になるであろう。東大の大型計算機センターなど数機関では、すでに、オンラインによる情報検索サービスを実施している。

学術情報システムに関する学術審議会の答申を受けて、現在、文部省は、学術情報センターの設置に向けて調査・開発を行っている。このシステムは、①学術情報センターを中心に、全国の大学図書館などをオンライン・ネットワーク化する、②機械による学術情報の検索と複写による情報の提供を促進することをおもな目的としている。

新しい学術情報が「雑誌」によって得られることの多い今日、雑誌の利用は増加する一方である。さまざまな問題があるにせよ、多くの図書館が学術情報システムに参加することにより、必要な情報を機械を使ってその場で利用者に提供できるようになるのも、遠い未来のことではないであろう。

(雑誌係 小林邦子)

金沢工業大学 ライブラリーセンター + 未来図書館の一形態 +

金沢工業大学ライブラリーセンター(KIT-LO)は、5年の歳月と60億円を費して、1982年6月に開館した完全機械化図書館である。

11階建ての図書館に入ると、まず目につくのがエントランス・ゲートである。利用者カードを挿入して機械に読み込ませ、OKならば入口のバーが開く。階段を上ると、貸出しカウンターのある総合フロアーが広がっている。この図書館の特徴は、目録のないこと(cardless)である。著者名・書名などの書誌情報はデータ・ベース化されており、利用者は館内に設置された9台の端末機から検索する。全面開架であり、借りたい資料を、利用者カードといっしょに貸出しカウンターに渡すと、機械処理で瞬時に手続きが終わる。返却・予約も同様である。また、AV・LLコーナーでは、KIT-AVIS(Audio Visual Information System)によって、音声画像情報を自動的に提供している。利用者は必要な資料の番号を手もとのキーボードから与えれば、ミニコンを内蔵したロボットが自動搬送してセットを行い、約40秒で画像や音声を最寄りの受像機やヘッドホンに送ってくる。そのほかに、164台の端末機を備え、コンピュータを相手に学習をするCAI(Computer Assisted Instruction)などもあり、とにかく未来指向である。

将来、すべての大学図書館が、このライブラリーセンターのようになるとは思えないが、未来の図書館の一形態を象徴しているのは事実である。

(洋書係 入村和彦)



女性週刊誌は1957年2月、河出書房の「週刊女性」が最初(同年8月から主婦と生活社)。1958年7月、集英社から「週刊明星」が発刊。同年12月には光文社の週刊「女性自身」も発刊され、雑誌界華やぐ。

特集・閲覧—図書館活用学 part 2

図書館をあまり利用していない人、ほとんど利用していない人に、そしていつも利用している人も、もう一度その利用の仕方を基本から学んでみるのもよい。いま「閲覧のすべて」をあなたに。

図書館のどこに 本があるのか？

本学では毎年約2万8000冊の本が購入されています。現在その総冊数は約63万冊になりました。そのうち約23万冊の本が、これからご紹介する「本学貸本屋センター」の中に隠されているわけです。本の並べてある場所によって、「借り方」や「利用方法」に、若干のちがいがあります。面倒ですが、よろしくお付き合いのほどをお願いいたします。

(1) 1階開架図書室：2万5000冊 少ないか？

(2) 2階参考室：7200冊 無断持出し禁止

(3) 書庫（6層）：19万8000冊 立入り禁止

1階の本は直接手にすることができるので、「何かと便利に」本とお付き合いいただけます。新しい雑誌もあります。まさに「本屋さん方式」といえます。これに対し、書庫にある本はそうはいき

ません。まず、カード・ファイルにしっかりと当たってもらいます。“イデッ!”なんて言わずに、カウンターに請求してもらいます。すると本が出てくるカウンリになっています。古い雑誌は書庫にありますので、カウンターに請求します。これが1階にある本と書庫の本とのちがいです。次に、2階参考室には、調べものをするための本—これを「参考図書」とよんでいます—が並んでいます。辞（事）典・索引・地図帳などです。多くの学生に利用してもらうために、館外貸出しはしていません。コピーが必要なときは、2階のカウンターへどうぞ。

このほかに40万冊の本が学部図書室・学科研究室に保管されています。図書館の本は、「あなたのご指名をお待ちしている」と申しております。

(洋書係 眞下 勇)

資料の探し方

—和書目録カードを中心として—

本学図書館で所蔵する資料は約23万冊、研究室の蔵書を含めると約63万冊あります。この膨大な資料の中から、自分が必要とするものを選び出す手がかりとなるのが「目録カード」です。目録カードを上手に使いえれば、所蔵するすべての資料を能率的に利用することが可能となります。

目録には、「著者・書名目録」と「分類目録」の2種類があり、それぞれの方向から検索できます。

1. 著者・書名目録 「著者名目録」と「書名目録」がアルファベット順に混合配列されているので、求める資料の著者あるいは書名がわかっている時に使います。

この目録は著者名・書名のほか、共著者名や叢書名からも、また人物に関する研究や伝記などは、対象となった人名からもひくことができます。著者名や書名は、ローマ字（ヘボン式）におきかえた形で配列されており、西洋人名は原綴で姓・名の順に記入されています。原綴がわからない場合は、西洋人名辞典などで調べて

から目録カードをひくようにしてください。

2. 分類目録 ある特定主題についての資料を探すための目録です。この目録は、一定の分類体系にしたがって配列されています。資料の内容により目録カードが集められているので、調べたい資料の主題がわかっている時に便利です。求める資料がどの分類番号に属するかは、目録室に備えつけてある『日本十進分類法』で調べれば、すぐ分かります。

同一分類番号の中では、さらに標目のアルファベット順に配列されています。

目録は大学全体の総合目録になっており、各研究室で所蔵する資料に関するカードもいっしょに配列されています。請求記号の上部に「所蔵する研究室名」が記入されているので、検索の際に確かめてください。また、図書館所蔵の資料のうち、「S」は開架図書室、「R」は参考室に、それぞれ備えつけてあることを示します。

図書館資料の利用には目録は不可欠のものです。目録カードに慣れ、資料を有効に活用して、図書館をより身近な存在にしてください。

(和書係 上野しのぶ)

分類ってなんだろう？

分類ってなんだろう？

読者が 図書を求める場合を 考えてみよう。

2つの方法がある。

I Author-title approach

II Subject approach

少し 知的に表現してみた。ただ それだけ。実は 誰もが それを知っている。たとえば 書店に 本を注文する時 あなたはどうする？あるいは こんな時も あるはずだ。あなたは 本屋さんに行く。ただ単に 推理小説を 西洋史を 読みたいために。ぼくたちにとって I とIIは 既知の概念であり手段だ。だから ここで 言いかえてみたい。確認のために。利用者が ある資料を探し求めている。それに関する彼の知識は 以下のいずれかである。すなわち 著者と書名のどちらか一方 ないしは 両方を知っている時。それは Iである。次に 著者・書名ともに知らないか 知る必要がなく それゆえ主題から資料に接近する時。これは IIである。

2種類のアプローチ。図書館で それを可能にするものが 目録である。情報検索のABCは

目録から始まる。もちろん 目録は 1種類だけではない。IとIIに対応した各目録が 存在している。大学図書館では：

Iに対応して ①著者・書名目録を 準備しており それらをいっしょにまとめている(混配)。IIに対して 一般的に ②分類目録と③件名目録があるが 当館では 後者を省いている。目録はすべてcard formという形式で作成されている。また 洋書と和書は 目録が別々になっており 分類体系も別仕立てのものが使われている。少なくとも 以上のことを知っていただきたい。

ふたたび 分類ってなんだろう？ もう 明白である。それは 主題検索から ある資料へ至るための重要な道具のひとつである。そう言うてよい。また 分類接近法は 本質的に 知的で分析的である。したがって 体系的でなければならぬ。それを尊重すること。シブレビコールが聞こえる。分類に統一性と持続性を与えよと。だから かんたんに 分類体系を変更できない。どのくらいできないか？ 現在使用している十進分類表の出版年。和書N.D.C.第5版-1942年。洋書D.C.13版-これがほぼ半世紀前1932年！

(洋書係 鈴木宗一)

ふたつの全集

私の机の右側に古ぼけた本箱があって、そこにふたつの全集が並んでいる。いちばん上の棚に『太宰治全集』、次の棚には『定本西鶴全集』。鮮やかなオレンジ色の背を見せて、西鶴のほうは手垢もついていない。太宰は繰り返し繰り返し、いったい何度読んだことか。そう、このふたつの全集は、私がまだ国文科の学生だったころの思い出をよびおこしてくれる。

1年の基礎演習で太宰の『人間失格』をはじめて読んだときの、あの妙な気持をなんと言ったらいいのだろう。それから、ほかにどんな作品を書いているのかと文庫本で手当たり次第に読み、ひとつ読むごとに心ひかれていった。彼の作品に流れている暗い虚無の裏側の透明な明るさ、おかしさは、ほかの作家にないものだ。「アカルサハ、ホロビノ姿デアラウカ」「夜の次には、朝が来る」「美しく生きたいと思ひます」「私の家はどこにも無い」と彼は言う。この世の中では結局どこにもゆきどころのなかった彼の心がさまよっていった跡を、私の心も真っ直ぐに追ってゆき、深く感動し、共感した。神田に出かけるたびに全集を1冊ずつ買って来て、ワクワクしながら並べていった日々が、つい昨日のことのように思われてならない。

3年生のちょうど今ごろ、卒業論文のテーマを決めようとしたとき、なぜ太宰をやめて西鶴にしたのか。太宰が作品の中で、西鶴を「世界で一番偉い作家」だとほめていた、ということもある。西鶴の1~2の作品、とくに『^{ほん}腕久一世の物語』を読んでとても心を動かされた、ということもある。が、正直に言って、誰が書きやすいか、何が研究しやすいか、というような、はなはだ俗っぽい動機によって決めてしまった。そして今、私の心の中をふっと苦い後悔がよぎるとき、これから論文を書こうと張りきって勉強している3年生の姿を図書館で見ていると、何かひと言、励ましの言葉をかけたくなくなってしまふ。

(運用係 清水裕子)

「バイブル」・気まぐれ散歩

— 欽定訳と「姦淫聖書」, etc. —

『ギネスブック』79年版によると、世界最高の印刷部数を誇るの「バイブル」である。1815年から1975年までに約25億冊刊行されたというから、世界一のベストセラーと言ってよい。〈Bible〉は、ギリシャ語の〈biblos〉から来た〈小さな書物群〉を意味し、1千余年かけて多数の人々が心血注いで書き記した〈聖なる書物〉で、新・旧約66巻から成る。なにしろ世界人口40億の^{かて}喜以上の人々の心の糧だから、外国文化の研究者は読まずには済まされない。原本は、旧約がヘブライ語、新約がギリシャ語だが、それらは何一つ現存していない。「聖書」と言えばとっつきにくい、その気でページを繰れば、天地創造・樂園追放からイエスの死と復活・黙示録に至るまで、悠久の時の彼方の壮大なパノラマが眼前に展開しはじめるだろう。

聖書翻訳の初めは聖ジェロームによる古ラテン語訳「ヴルガタ」で、15世紀以前はすべて手作りだった。修道士たちが羊皮紙や仔牛皮紙に一字一字書き写し、細密画を入れるので、1冊完成するのに1年以上もかかった。ゲーテンベルクの「42行聖書」（1456年印行 ラテン語訳）は最初の活版印刷物としても有名で、仔牛皮刷と紙刷の2種類ある。1978年、21部しか現存しない完本のうち、紙刷本を1部200万ドルの世界最高値でドイツの州政府が買い上げた『ギネスブック』は記している。

カトリック教会では長いことラテン語聖書以外公認せず、イギリスでも英語版出版の当初、関係者がひどい迫害を受けている。〈英語聖書の父〉ティンダルも、磔・絞首の上、火焙りになっている。英訳聖書の中で最も有名な「欽定訳聖書」は、ジェームズ1世の命により、54名の学者たちの手を経て1611年、完成した。それまでの英訳聖書を統一したスタンダード版だが、文体・語法・リズムなど原典以上に美しく、以後シェークスピアとともに英文学の肉となり骨となった。出版後、国王の名でそれを公認しなかったにもかかわらず、国民や学者にその権威を認められ、「欽定訳」（The Authorized Version）と呼ばれた。それも版を重ねるうちにひどい印刷ミスが次々に出て、そのま

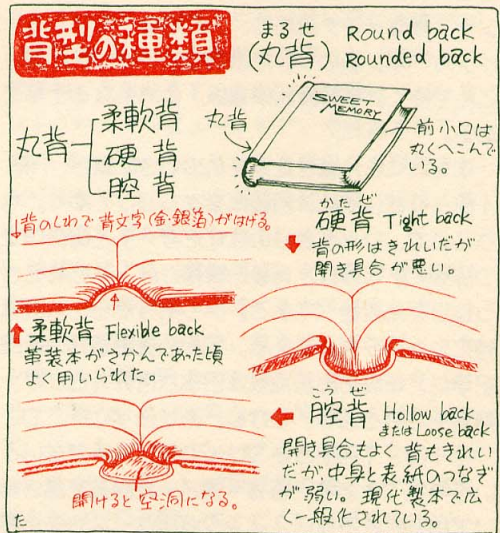
ま異名となったものがある。1631年、〈not〉が1語落ちたために〈汝姦淫すべし〉となった「姦淫聖書」は没収焼却、印刷者は300ポンドの罰金を科せられた。また、Jesus が Judas となった「ユダ聖書」とか、〈hate her〉が〈ate her〉と、憎さのあまり相手を食べちゃった？もの、ほかに「殺人者聖書」などと物騒なものもある。「姦淫聖書」の原本はこれまで6部発見されたというが、この種の滑稽な誤植は欽定訳以外にもいろいろある。

ところで、聖書全巻にはどれくらいの語(word)が含まれているだろう。イギリスの学者の調べでは「欽定訳英語聖書」中には、77万3692語あるそう。さて、この中でいちばん多く使用されている語はいったい何か？〔▶名詞・動詞のほかいろいろあることも考えて、見当をつけてみてください。答は文末にあります〕

最後に、本学で所蔵している洋書の「Bible」を、年代の古い順に2~3挙げてみる。『Biblia』（1550年刊 デンマーク語訳）、『The Geneva Bible』（1560年刊 英訳）、『The Holy Bible』（1611年刊 「欽定訳」）などだが、残念なことにはどれも複製版である。さて、この〈時代をこえたベストセラー〉に挑戦するファイトは??

〔▶答は〈and〉で、4万6277回使われています。単文を羅列した原語をそのまま忠実に訳した結果だそうです。〕

（整理課長 境 経夫）



「男性」週刊誌は1964年4月創刊の「WEEKLY平凡パンチ」が最初。従来の男性サラリーマン対象の週刊誌と違い、若い男性に的をしぼったので成功する。集英社の「プレイボーイ」は、1966年11月発刊。

1985年をメドに『学術雑誌総合目録和文編・新版』の編成作業が、東京大学文献情報センターを中心に進められている。もちろん学習院大学図書館もこれに参加した。1983年10月末には、コンピュータに入力するためのデータシート記入をおえて提出した。提出雑誌数は各学部研究室所蔵分を含め、4060誌になった。また、学習院大学図書館でも、学内で所蔵している逐次刊行物を網羅した『学習院大学所蔵逐次刊行物目録』の発行めざして、作業を進めている。自館だけで秘蔵している資料を、互いに利用しあう「相互協力」も各大学図書館間で活発に行われるようになってきている。

* * *

『学術雑誌総合目録』について

A誌の△△号に掲載されたB論文に目を通したいが、学習院内では図書館も各研究室もA誌を所蔵していない—こんな時ぜひ調べていただきたいのが、『学術雑誌総合目録』（以下『学総目』）です。収録対象機関は全国の主要な国公私立大学・国立国会図書館・各官公庁所轄研究機関・民間研究機関等に及び、文部省の監修による“研究論文の発表を目的とした逐次刊行物”の総合目録ですから、質量ともに充足度の高いものといえましょう。

構成は、人文科学和文編・人文社会科学欧文編・自然科学和文編・同欧文編の4編で、誌名アルファベット順に所蔵機関が収録されています。各編の最新年版・収録機関数・収録誌数は、上記の順

に、1973年版・294機関・2万4000誌、1980年版・355機関・3万6881誌、1968年版・316機関・2万5000誌、1979年版・339機関・3万8600誌です。また、欧文編は人文社会科学、自然科学の両編統合補遺版1982年版が刊行されており、489機関・3万143誌が電算機処理による機械可読の形で蓄積されています。

上記の目録はすべて、参考室に入つてすぐ右側の書目・索引コーナーに備えつけてあります。“学術情報の相互利用を促進するため”に編集された『学総目』ですから、おおいに利用していただきたいものです。そして所蔵機関が確認できたら、2階カウンターへどうぞ。そこで閲覧依頼の紹介状や文献複写依頼状の発行を受けつけていますから。
(和書係 中野里美)

いつものように、静か

に黙々と仕事を続けてい「^{サンゴ}3・5カード」をみつめながら

る。本の分類番号・著者・

書名・出版社・刊行年・厚さ・大きさを、縦3インチ・横5インチ規格の、いわゆる「^{サンゴ}3×5カード」、カーボン紙のついた原稿紙に、せっせと書きこんでゆく。「整理課和漢書係」のおもなる仕事である。

本をたくさん載せた車を机のわきに置き、1冊、1冊とりだしては、目録作業をつづけてゆく。「もうこれで、ひとくぎりのはずだが…」と胸の中でつぶやく。しかし、背後の書棚には、あらたにぎっしりと本が並べてある。いつもながらこれは気持ちにショックをあたえる。10月の読書週間の新聞記事に、年間の出版点数は日本が世界4位とが、無理もないと思う。しかし、あせらずに、こつこつと1冊、1冊をかたづけてゆくしか手がないという持論でとあす。著者・書名…と原稿を書き続けていると、不意に、インクが出なくなった。灯にあてると、ボールペンが白くカラッポになっている。タバコの煙をたてながら、隣のスタッフに、「ねえ、大きなボックスのようなものがあって、

その中に本を、ドサツと放りこむと、印刷カードになって出てくる機械が

あるといいねえ、1冊、1冊目録をとっているとしれつたくなるよ」と話しかけた。「わたし、コンピュータを図書館にいれるというのは、最初、そんなものかとおもっていました」といわれる。しばらくふたりで笑った。だが、これは笑いごとでなく、考える必要のあることと知っている。

現在の図書資料と利用者を結びつけるメディア、「目録カードシステム」は、そろそろ現代社会の情勢にあわなくなってきたのではないだろうか。押し寄せる出版資料の処理やカードの配備にも、限界がきたのではないだろうか、固定された場所での手間のかかるカードの検索は、現代社会の時勢に適応できなくなっているのではないだろうか。

銀行の窓口業務の機械化で、「自動入金・引出機」が現われて、「ボタン」や「キー」を老若男女が操作している。もはや、「便利な機械」と定着したようだ。やがては、図書館にも「ボタン」「キー」の時代が訪れるだろうと思う今日である。

(和書係長 奥田孝之)

著作権というのは著作者の人格的・経済的利益を独占的に保護するものであり、その中でも複製権（著作権法第21条）というのは、著作権の基本となるものである。図書館で行う複製は、著作権の制限規定のひとつで、ある条件のもとに認められている（同法第31条）。その条件とは、第1に、利用者の求めに応じ、公表された著作物（図書館資料）の一部分を調査研究のために1人1部複製する場合。第2に、図書館資料保存のため（破り取られた部分を修復する等）に複製する場合。

図書館と著作権

（運用係 北村 誠）

第3に、他の図書館等（著作権法施行令によって定められた施設）の求めに応じ、一般に入手することが困難な図書館資料の複製物を提供する場合。以上の3つが、図書館において複製が許されるための条件である。

ところで最近、複製機器の発達や普及にともない、著作物の複写が野放し状態に置かれ、著作権者の経済的利益が脅かされつつある。その

解決策として、1983年6月、文化庁長官の私的諮問機関である「著作権の集中的処理に関する調査研究協力者会議」が中間報告を発表した。その内容は、著作権の制限規定のひとつである私的使用のための複製（同法第30条）の範囲を明確にし〔たとえば、著作権審議会第4小委員会は、コピー業者に著作物の複写を頼んだり、自分でコイン式複写機でコピーを行うことは、

私的使用のための複製に該当しないとしている〕、著作物を複写する人から著作権料を徴収するための集中的

な処理機構を設立しようというものである。こういう動きの中で、図書館として複写サービスをこれから先どのように扱っていくか、難しい問題である。ただ、たとえ、図書館として条件を満たした形で複写が行われたにしても、著作権保護という見地から見れば、著作者に対して経済的損失を与えていることを十分認識しておかなければならないであろう。

著作権とコンピュータ

1982年12月、東京地裁で「被告は、原告に対して、各自金54万円及びこれに対する昭和54年11月1日から支払い済みまで、年5分の割合による金員を支払え」という「タイトル事件」の判決が出されました。これは、ゲーム用のプログラムを無断で複製した行為に対して、ビデオ・ゲームのプログラムは「著作物」であり、勝手に複製するのはけしからんと、上文の判決となったわけです。コンピュータ・プログラム（以下「ソフトウェア」といいます）が著作権法で保護される「著作物」にあたるとわが国で最初に明らかにした判例ということで、大きな関心と注目を集めました。

コンピュータ産業は、この数年来、飛躍的に成長し、そのソフトウェアの法的保護の必要性が、業界を中心に叫ばれていました。それだけに、この判決が出たのを契機として、ソフトウェアの保護を、著作権法によるか、特許法によるか、全く別の新しい法律によるかという議論が、一段とにぎやかになりました。アメリカでは1980年に著作権法を改正して、ソフトウェア

を「著作物」として明文化しています。

日本の著作権法では「著作物」とは「思想又は感情を創作的に表現したものであって、文芸・学術・美術又は音楽の範囲に属するもの」と定義されています。ソフトウェアは一般に技術的なアイデア（思想）を創作的に表現した「学術上の著作物」となります。これらの問題は『ジュリスト』や『コンピュートピア』で特集されています。また、法とコンピュータ学会から刊行された『法とコンピュータ関係文献目録』には、多くの関連記事が収められています。

機械化による人員削減は、女性就労者をおびやかし、就職問題で苦勞する女子学生に追い打ちをかけつつあります。数年前、コンピュータを使った犯罪が世の中を騒がせました。今、「ロボット殺人」という耳なれぬ言葉さえ聞かれます。こうした「コンピュータと人間のかかわりあい」の中で、新しい知識収集の場としての図書館をおおいに利用してください。図書館は古い資料の収集だけでなく、最新情報の蓄積も行っているのですから…。（洋書係 甲斐静子）

参考室あれこれ

今回は、『現代用語の基礎知識』（1983年版）について書くことにする。時事問題・経済問題・国際問題・学芸・科学・生活・スポーツ・レジャーなど、現代を理解するのに必要なあらゆる分野の新語および基礎的な言葉を解説。その豊富で実用的な内容と廉価（約1300頁で1900円）ゆえに広く利用されている。1948年創刊、毎年改訂（'75年版からコンピュータ組版）。1951年にはベストセラー第10位にランク（『出版年鑑』による）。参考室でも利用頻度は高いほうである。用語は体系的に各部門各項目に分類され、記述されている。知りたい部門を読めば、その部門の概観・ポイントがつかめる。本学香山健一教授から釣名人まで専門家が執筆。言葉からアプローチするために全用語索引がある。項目として取り上げている用語だけでなく、解説文中に太字で示した関連用語もこの索引からひける。外国語の略語とアルファベットで

始まる用語は「外国語の略語・総索引」からひく。各ページ上欄に1行知識（各界・現代ことわざ名言集）、下段に2行話題学を収録、このほか新問題・新知識・新傾向用語集、マスコミに出る外来語・略語総解説、巻頭4色グラフ、見返し2色グラフ、別冊付録（読める世相・風俗・流行語年表）と盛りだくさん。全ページ読んだら雑学博士になること間違いなし。「非ポケ3原則」ご存じであろうか（解答は209ページ）。

先日、「日本の経済力を地図で表したのを見たい」という質問を受けた。数値なら各種統計類があるのだが、さて……「『現代用語の基礎知識』で見たことがある」という同僚の助言を得て旧版を探すと、'79年版巻頭グラフにあった。情報はどこに転がっているかわからない。本文だけでなく、付録にいたるまで目を光らせていなければと肝に銘じたことである。本書編集の苦勞話に興味のある方は、『朝日ジャーナル』'81年3月25日号を読みたい。（'84年新版は、昨年12月に発売された。）

「文献の求め方シリーズ」の紹介

図書館では、図書館利用法の総論として、毎年4月、新入生を対象にオリエンテーションを行ってきましたが、1983年度からはさらに一歩進めて、各論ともいうべきセミナー「文献の求め方シリーズ」を開催しています。第1回「卒論・ゼミ論のための雑誌論文の探し方—総合誌から学術誌まで—」、第2回「資料としての新聞記事—その探し方と利用上の問題—」というテーマで、ティータイムをはさみ和やかな雰囲気の中で学習。なかなか好評のようです。次回はあなたもぜひどうぞ！（参考係 久保田安子）

お知らせ

○学年末試験近づく！！

年が明け、まだ正月気分も抜けきれないあなたにも、この季節がやって来ます。

試験が近づくと、「辞書はどこにありますか」、「コピーはどこでやってもらえますか」、さらにはノート（これが汚い！）を見せて「この本ありますか？」といった学生がたくさんやって来ます。

今回は、このような人たちのために、試験期における図書館利用案内講座を開設。いざっ！

図書——1冊の本に集中する場合が非常に多い。

遅れをとったら最期。できるだけ早く、めざす

図書にあたる。自分が調べ終わったら、次の人のためにすみやかに返却する心を。

参考室——室内の図書は「禁帯出」。ひとりで数時間も独占せず、てぎわよく調べるのが肝心。

閲覧室——友だち数人と大きな声を出して話さない。休み時間はとくに込み合うので注意。

コピー・サービス——受付け時間と引渡し時間が定められているので、余裕をもって申込みを…。2階カウンターで。1枚¥30。

開館時間——平日8:50—18:30 土曜日8:50—16:30
これでもう安心!!あとは実力がものをいう。

来ぶらり No3・4（合併号）1984年1月1日発行

編集委員：甲斐静子 清水裕子 中村丈夫

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 Tel. (086)0221 発行責任者：波多野里望